

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-305689

(P2004-305689A)

(43) 公開日 平成16年11月4日(2004.11.4)

(51) Int. Cl.⁷

A61M 21/02

A47G 9/10

F 1

A61M 21/00

A47G 9/10

300Z

V

テーマコード(参考)

3B102

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 15 頁)

(21) 出願番号 特願2003-146994(P2003-146994)
 (22) 出願日 平成15年4月8日(2003.4.8)

(71) 出願人 503122786
 大西 真実
 新潟県長岡市愛宕3-2-12
 (72) 発明者 大西 真実
 新潟県長岡市愛宕3-2-12
 Fターム(参考) 3B102 AA05 AA06 AB00 AB01 AC01

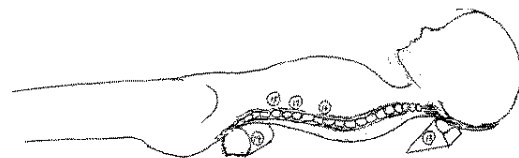
(54) 【発明の名称】 必ず眠れる魔法の枕テオリーくん、1号、2号

(57) 【要約】 (修正有)

【解決手段】後頭骸腱と呼ばれる人体の頭骨を頭筋で安定させるものが、ストレスにより緊張し、大脳、自律神経を過敏にするため、不眠症が起る。腱や脊椎に頭の荷重をかけて押し付けるようにして、枕として使用すると、この腱の緊張が解かれるものとなり、レテプシンが小脳による指令で大量に発生するため、気を失うように深眠する。

【効果】MRC及び脳波検知器を用いてみると、大脳から急速に血行が引き、海馬に体温が上がる磁力が発生する。逆C形脊椎の矯正を終えると、それまで血行が悪かった脊椎はS字形脊椎に戻り、血行促進と共に治癒される。

【選択図】 図7



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本発明品は後頭靭帯と呼ばれる人体の頭骨を頸筋が安定させるべく、そこにストレスで貯まる汚れた血液で緊張したこの靭帯がセンサーの役割りを果し、大脳、自律神経を過敏にする時、不眠症や老化現象が起こる。他、悪い姿勢を続けると、S字形脊椎が、逆C字形脊椎型に歪曲変形し、このストレスが同様に連動する、大脳、自律神経に伝達される時、やはりうっ血が生じ、血液が滞り不眠症や老化現象を起こすものとなり、そして、それにより緩んだ脊椎に繰り返し荷重がかかると、ズレてヘルニアを起こす。という、生体生理機能メカニズムがある時、本発明品である所の必ず眠れる魔法の枕テオリーくん1号

を、後頭靭帯に頭の荷重4~6kgをかけ、押しつける様に、枕として使用する時、靭帯が目線の喪失と錯誤し、自律神経緊張緩和を連動し、不眠症を治す他、

網筋が再躍動する様になり、近、遠、乱視の治療する効果がある。の請求。

【請求項 2】

上記述に説明される、必ず眠れる魔法の枕テオリーくん2号を、人体腰部に入れ、横になり、体重をかけると、歪曲されたS字形脊椎は矯正され、うっ血（疲労）が取れる事と共に、ヘルニア症の予防に絶大な効果がある。請求。

【請求項 3】

又、本枕を使用し、後頭靭帯、及び背筋の緊張緩和をさせ、いびき症が治る事の請求。

【発明の詳細な説明】

【0001】大概この世に生を得て動く動物は、何故睡眠をとるものであるか？という、睡眠メカニズムから、論証する、生体機能、解剖学見地において、何故不眠症が起こり、不眠症を解消する為に、本発明品が絶大な効力を発揮する由以を科学的に解説するものとする。

【0002】本題に入る。――高等動物には、それぞれ個々に脳が備わっている。この脳の定議は旧脳（海馬）、大脳（中枢脳）、大脳皮質（新進脳）、小脳、延髄（原始脳）の四要素から構成されます。

【0003】動物の躰は、夜る寝むって休憩を取るが、脳だけは、24時間、眠る事は無い。という意見を聞いた事があった。当該しないものであった。昼夜休まず活動するのは、脳であって、脳で脳でない原始脳と呼ばれる動物体枝神経の固まりを束ね、連動させ続ける延髄、小脳と呼ばれるものであって、一が動くとき二が動くから、一は再連動して動き続ける相対連動する枝神経群を、永久に同調子で維持させ続け様として進化したものが、原子脳の事であり、

【0004】更に分かり易く説明すると、人が水に溺れ、心肺停止の仮死状態で、全ての機能がストップしたとしても、心臓マッサージと人工呼吸の規則正しい甦生術を施すと、この原始脳が二の動作をするべく連動して動き出し、再び動物体全ての生活機能が甦生し、無窮動し続けるものとなる。という論証を以って、小脳、延髄の解説を終わり、旧脳、海馬と、大脳、大脳皮質（新進脳）の大綱解説に移行する。（以後は高等動物の脳構造となる。）

【0005】常に敏捷に動く事を必須要素として進化した動物を例に揚げ、魚類とし、新進脳（大脳皮質）を急速に進化させる過程を経て、上四要素の脳を満している。とし、（進化説）

【0006】次に極だって学習能力を必須要素として進化した動物達を例に揚げ、哺乳類とし、中枢神経（大脳）を急速に進化させる過程を経て、上四要素を満たしているとします。

【0007】然るに本題において、敏捷な動きを常用必須とする魚類。及び、学習能力を常用必須とする哺乳類。いずれにおいても、それらの者達は、頭部をグラつかせる事なく

、固定させ、その目線を一定に定めさせる事が出来なければ、致命的になる事の理を得て、魚類はその首にある後頭髄▲1▼と後頭筋を固め、ほぼ首が動かない様にして、自体を進化させるものであったが、

【0008】動きも比較的鈍い哺乳動物では、むしろ学習能力を重視するべく目線を固定させながら、頭部を前後左右に自在に動かせる様に進化するものであ

り、知能を発達させ、重い頭骨を頑強に安定させるべく、後頭髄①、後頭筋②

血管▲3▼を異常な程まで、発達させ続けるものであった。

【0009】それ故、危険が生じ、任意性、ストレス性を問わず、大脳から緊急命令が発令した際、それらは全身に行き巡りますが、危険が去り、後に大脳が安全命令を出したとしても、暫く体が動かない事がしばしばあります。それは、普段、昼、就寝中にある海馬が、大脳が発する緊急命令におどろいて、叩き起こされ、インパルス電子発生、同時に大脳で発生すべくシナプス電子を呼応する大脳で発生させず、(大脳主幹通路を経由させず)、大量のシナプスを海馬で呼応させ、(シナプスのワープ。第六感。テレパシー等)海馬は、それを直接、小脳延髄、自律神経に順に伝えてゆくので、インパルス=シナプス⇒意識の関係は成立しなくなります。

【0010】この様に、大脳主幹神経を経由せず、いきなり小脳に強い刺激での働きかけがあると、この時自律神経は、まず、▲1▼を安定させるべく為、緊張が走り、活性酸素を多く含む夥しい血液を▲2▼にある▲3▼に大量に送り込みます。すると、前記、上から16行目説明にある、無意識症状(脳間絶交症)が併発する、

【0011】軽度の際には、第1度として、普通にして生じる不眠症、独り言、白髪、シワ、倦怠感、脱毛、老化現象であったが、第2度に進むと、夜行性、自問自答する独り言、昼に生じる倦怠感、他、急激な白髪化、脱毛症、シワによる老化現象の身体的特徴が見られる他、海馬は、大脳の為す行為をいちいち、著しく、危険な行為と判定する錯誤から、引きこもり症を併発する様になります。

【0012】そして、第3度に進むと、微眠む事、眠っている時間が多くなり、寝言や、奇声を発する事が多くなり、自制心がなくなり、反社会的行動が目立つ様になり、引き込みりは病的に強くなります。(心神こう弱状態)

【0013】4度(心神喪失状態)になる重度になると、喜怒哀楽をして、泣き、笑うの区別がつかなくなり、奇行としては、夢遊症を併発し、昼夜別なく行動し、他者を殺傷する報告があるが、当人に自覚は有りません。目先定

【0014】第五度になると、喜怒哀楽がなくなり、冷産者行為不可となります。その由似は、前記する、急激であり、度を越えた脳間絶交(精神分裂)症が起こる為、記憶(その間の意識)が無くなってしまいう後遺症が、理由であった。

極単な例が、記憶喪失症であり。就眠中、高い所を歩きまわって帰宅する夢遊

症もそれである。…よ、患者のいずれの後頭髄を触ってみると石の様に固く

なっているのが普通であった。これが精神不安定を起こす理由でもあった。

【0015】人動物の体内にこの様なメカシステムがある時、人動物の日々にあるストレスの蓄積は、特に頸部▲2▼において、急激なストレス(有時)に備えて

この髄①を絶対的頑強の保護管理の元、その目線②を保守しなければ、壊れた

首振り人形の様に首を乱舞する結果になり、平行感覚が取れなくなるに至り、致死存望を危ぶむ事になりかねます。それ故、血液は、常時、ここ▲3▼に大量にストック(常時)していなければならず、

【0016】然るに、本発明である、「必ず眠れる摩法の枕、テオリークン、1号▲13▼を、本図6に示す▲1▼の位置に頭の重さ、5~6kgの荷重をかけて、▲1▼に押しつける様にし、枕として使用すると、ストレスによって、大脳指令が招く、あらゆる余分な血液を処断する事となり、張り巡らされた夥しい神経センサーが急速に血液が消えたと、錯覚すると同時に、後頭髄のグラツキと錯誤し、自律神経が危険と判断するまま、大脳

10

20

30

40

50

を眠らせる睡眠液が出て、大脳を覆う為、気を失った勢いで、人動物は深眠に陥る事が出来ます。

【0017】又、人動物（犬、猫）をする、他、多くの動物等は、ストレス性

~~液が肥肥（高脂結晶酸化物体内推積）、他あらゆる理由により、この鍵①、背筋が固まり始めると、就眠中、いびきをかき、体周波の振動も発生させ、この鍵~~

▲1▼、筋▲15▼の凝り、固まりを緩和させ、体の老化を防ぎ、体のしなやかさや柔軟性を保とうと努め始めます。

【0018】その為、いびきをかき始めたら、すぐに、本発明品枕、テオリークン1号、2号を▲13▼▲14▼を為す指定の場所に当てがって、それらの緊張を解いてやると、いびきは停止するものであった。又ヘルニア症予防に対する効果あり、

【0019】本発明品は精神を安定させる為、ニコチン症、アルコール依存症への治癒緩和にも▲13▼▲14▼をペアで使用して役立つものであった。

【0020】

【発明の属する技術分野】

枕が効果する不眠症の緩和、治癒及び、人体生体機能の矯正、活性化。

いびきの治癒に関する。

【00021】

【従来の技術】

【00022】有史時代の文献において、不眠症、白髪、若ハゲ、シワ、肩凝り、頭痛、近視、乱視、遠視、いびき、ニコチン、アルコール依存症、腰痛症に悩み苦しむ人々の苦しみが描かれているのを見たが、人々は薬学を突出させ、最近の多くの発明、考案に関する論文も見たが、これ等を解消させる為、ベルト有り

【00023】ラドン温泉療法有り、ローラを背骨に当てがいで、移動させ、背骨を矯正させる単立的考案。そして、電子や電気に目を付け、これに振動を与えさせる事、やがては、マグネット磁気を利用する血液の対流を良くし、帯磁力によるイオン化（血液が活発に動く）により流通をスムーズにさせ、これらの元凶ともなる汚れた（乳酸菌をして、高脂結晶酸化物体内推積）血液を首筋、肩から強制的に排出させようと務めるものであったが、

【00024】それらは、大脳が感知し、ストレスを発生し、本文に示す、セン

~~サーと作る後頭骸骨、筋、血管に緊張が走り、日々、血液が滞留し続けると沈澱~~

化物（血垢）となり、これに乳酸菌（痛みを造る物質）が付き、チーズが出来る様に血垢は次第に固まってゆき、ドロドロとなり、筋内血管等に附着し、これに更に強い酸を出す雑菌が付き始める時、石灰化が進み、あらゆる蛋白質、酵素をボロボロに分解してゆきます。

【00025】この現象が持続し、生物体、毛細血管内に生じ細胞を破壊し続ける時、上記述文章に示された、あらゆる老化現象、不眠症が生じてゆきます。

【00026】この様な時、最近発明され続けている、やたら凹凸を付け、磁気を帯びた枕、副飾品、そしてムチ打ち症に用いられる頸部固定器等をする、何ら生体機能、メカシステムにある科学的根拠を得ない、この種に関しての駄作的な発明論文が山積され続けている現状を踏まえて、見当される時、

【00027】これらの物品を例え人体頸部に当てがってみても、気休め低度に血行がよく、血液が活発に動き、頭部の重さが軽減したくらいに錯覚するが、熱ぐるしく、又、微弱振動を与える物は、脳しんとう現象（後述）を起こすので、既に廃れ、須く一時の流行を履しても、これらの発明品には治癒効果の無い事にすぐに気が付くので、やがて消費者は、これらを購入しなくなり、自然消滅してゆくものであった。

【00028】

【発明が解決しようとする課題】

【00029】不眠症、白髪症、若ハゲ、シワ、肩凝り、頭痛、近視、遠視、乱視、いびき

、ニコチン、アルコール依存症、腰痛症……等を緩和、治癒するのに為す、あらゆる枕や、副創品機能にある従来の技術は、生物体機能メカニズム、システム、そのものを科学的に理解してはいないで、考案され続けているものばかりであったので、本論文は、それらを非定し、解明、解説し、論証論理学を基台、これに基づく動物実験結果をも用いて、発表し、本課題を次から示す様にして解決するものであった。

【0030】本発明詳細で既説される、人動物、生体生理機能学上、大脳がストレス等、緊張を感知し、小脳、自律神経に刺激が興奮として伝達される時、目

線を固定し、意識を鮮明にすべく、後頭靭帯、筋肉内血管に活性酸素を多く含む

血液が補充され続けて後、大脳から緊張が離れても、原始脳（小脳）が、興奮したまま、刺激は、自律神経を經由して、それは、再び大脳を刺激し続ける悪巡環が繰り返す時、

【0031】

肩（後頭靭帯）の力を抜けば興奮が冷める。という言葉をよく聞く。

その為、従来の発明技術論文では、この肩の力を抜かせる為、昼夜を問わず、思考錯誤する、微弱電気、電子を考案して後、やたら多くの凹凸をつけた枕を用いたり、副飾品に強力磁力を発する首飾りを考案し続けるものであったが、

【0032】しかしながら、本発明品をするテオリーくん1号、2号枕を用いて、目線の喪失を計るべく、大脳の錯覚を起こさせる論理の元、

【0033】上記述まで説明される、大脳と原始脳が相乗効果を発揮し、興奮さめやらぬ悪巡環に陥って行く、刺激被労を処断させ、血行、流通ルートを良くし、緩和させてゆこうとする全ったく新しい物の考え方の上に成り立つ課題整理の基に発明されたものであった。しかしながら、それにも勝して、

【0034】本、枕テオリーくん2号は、ネスカフェの空ビンで有効であり、この会社が、本枕テオリーくん1号をもペアで御製作下されば、ゴミ資源再利用に役立ち、全国民37%の不眠症に苦しむ人々の救済に役立つと願って止まない。

【0035】

【課題を解決する為の手段】

【0036】犬、豚、他に赤青色及び白黒を連写する8mmビデオを見せ続ける

と、後頭靭帯をつまみ、筋血管に血液が異常に集まり、（サーモグラフィックを赤

く染める。）て後、目がうつろとなり、（目線を失う。）よだれを垂らし始め、（視床下部の圧迫刺激）、ひきつけを起こし、（大脳正常器回路遮断）て後、意識を失った。（居眠開始）事の報告で一手段とし、動物実験を続ける、

【0037】

十頭の中の動物等の一頭の後頭靭帯、及び背筋に、本発明品を小

型化したテオリーくん枕、1号をバネバンドで取り付け、次第に強く締めつけてゆくと、居眠りをしだすものとなるが、他の九頭は起きている。性器の肥大（オーガズム）が見られる報告をし、二手段とし、

【0038】

今度はこの動物等のうちの一頭にやはり同じ要領で、後頭靭帯に

振動機を取り付け、微震動から順に強振動を与えてゆくと、目線を失う事、やがて、動物は、脳しんとうを起こし、．．意識を失う事を報告して、三手段。

【0039】次に人体実験（自身実験）における、人をうつ伏せに寝かせ、のけぞる様に起こし続け（サバ折り姿勢）、C字形の背骨形成を作り、目線はあくまでも上方を見させ続けると、人動物は、目線を失い、同時に意識を失う報告をする。第四手段とし、人体実験を続ける事、

【0040】人に本、発明品、テオリーくん枕1号を付け、就眠姿勢を取ってもらい、居

眠りに入るまでの5～6分間、MRC、サーモグラフィック、脳波検値機を、それぞれ、用い、検値してみると、大脳から急速に血行が引き、海馬に血液が流れ込み、これの体温が上がり、磁力が発生する他、

【0041】トラック、タクシー運転手等で腰を痛めている人員に本枕、テオリークン2号を30分程、当てがい、使用してから、外し、サーモグラフィックを見ると、それまで青みがかり、血行が悪かったS字曲線は、改善(矯正)され、赤くなり、血行促進と共に「治癒された。」という、証言を得る事で、本論文内容を解決する第五手段とします。

【0042】

【発明の実施の形態】

横になり、後頭骨のつけ根部分にある軟骨を後頭靭帯①と呼び、ここに、本発

10

明品「必ず眠れる摩法の枕」▲13▼を、図6の▲1▼に当たる様にし枕として使用し、頭の重み(4～7kg)の全荷重をかけて、就眠姿勢を取ります。

枕の形状は先の丸い物から、先の鋭い物が有り、特に、近視、乱視のひどい人や、重度の肩凝りのある人は、この枕を初めて使用すると強い痛みを感じます。

(乳酸菌によるうっ血化現象が▲1▼にあるからです。)しかしながら常人には、それは殆ど有りません。それ故、最初は、先の丸い形状の物を使用します。

5～6分の時間のうちに、意識を脱落するかの様に、深い眠りに陥って行きま

す。のびぬけが付きやす。この枕は後頭靭帯以外の場所の使用を厳禁(危険)と

20

する為、本発明図に示す形状を理想の素形としているものであった。

【0043】

【実施例】

不眠症で困まるという主張や、意見を持つ、友人、知人、会社員、他会社員百人を集り、この枕をあらゆる条件を用いて使用していただき、実体実験をした所、100%の割り合いにある、これら人員は、平均5～6分の時間をかけないで、深い眠りに陥った。という証言と報告を得るものであった。近、遠、乱視も治った。

【0044】

【発明の効果】

【0045】動物実験上、犬、馬、牛のいずれの動物にしても、この発達した

30

後頭靭帯①を圧迫し、やがて強く押し続けると、微睡み始め、更に強く押し続け

くと、生体学上、大脳と海馬が即座に睡眠のスイッチの切り替え現象を起こす現象から、どんなに睡眠が満ち足りている場合(風雪の中の昼寝を指す)の人でも、強制的に眠らされてしまうものとなるので、性器の肥大さへ見られます。

【0046】その為、病院等で用いる場合、普段は普通の枕を使用し、時々本枕を用いると最大の効果が得られます。

【0047】しかしながら、本枕を常用し過ぎると、前記する大脳と海馬の睡眠の切り替え現象が頻発する為、レム睡眠化現象状態が弊発する為、常時微睡み状態が身体に起こるからです。弊害は、現実と非現実の区別が付きづらくなりますが、例外として、末期癌患者さんとか、安楽死を望む患者さん等が常用を望むならば、この限りでは有りません。

40

【0048】例えが良くありませんが、神様は良くしたもので、考証学で見る、アフリカ、サバンナで狩りを営む肉食獣は、大形被食獣を捕食する為、狩りを

する際には、その集録ビデオをアップにして見識する限り、強くこの後頭靭帯を

適確に狙って噛み付いています。

【0049】そして、ここを噛み付かれた補食獣は、苦しむ事なく、恐怖心も薄らいだ様に、気持ち良さそうに微睡み始め、性器の肥大さへ見られます。言うま

でもなく、被食獣は、後頭靭帯、筋のバランスを失った事で目録を失い、その脱落

50

を大脳が判定し、海馬が起き、(微睡)を誘い、海馬に近い視床下部に強い刺激が起こり、オーガズムを起こす所となったからです。

【0050】又、最近あまり見られなくなったギャング映画におけるワンシーンで

・ギャングが、この原理を知っている、ピストルの柄で被害者のこの後頭骸骨を狙

って殴打すると、然程力を入れず殴っても被害者は目線を失い、意識を無くします。

やがて、居眠りから冷めた被害者が、「まだ殴られた所が痛む!」と言っているシーンがあれば、それはウソであり、この原理を知らないプロデューサーの筋書き違いです。

【図面の簡単な説明】

【図1】昼、大脳が起きて、パルス外入力電子▲10▼を取り入れ、インパルス電子を体内に発生させ、それをシナプス電子に変換させる刺激を各脳神経に伝達し、情報交換し、活動する時、旧脳、海馬は就眠中にある事を示した図。 10

【図2】夜る、大脳が、眠ると、旧脳、海馬が起き出し、自身で発電するインパルス

⊕を発生させ、昼、大脳がシナプス電子⊖に変換し、刺激として、集め続け下

諸情報を、これに取り込み、シナプス電子に再変換する、強い情報(はトラウマ▲20▼となる)以外、就眠時間、約8時間かけ、就眠中の大脳が発生させるインパルス微弱発電放出(レム周期)時に合わせて、同周波数(記憶)にあう大脳に送り返す(この時、夢を見る。)図。

【図3】生、死、食、性、飢にかかわる五認知は、原則として、海馬の記憶に取り残されるものとなるが、極大嫌悪シナプス周期率の発生は、後のトラウマになり残事を示す図。 20

【図4】必ず眠れる魔法の枕、テオリーくん1号の図。

【図5】敏捷性を必要として進化して来た生物(魚類)等は、頸部を退化させ、後

頭骸骨と大脳皮質(新進脳)を退化させている事を示す図。

【図6】

必ず眠れる枕、テオリーくん1号を人体、後頭骸骨に正確に当てた図。

【図7】必ず眠れる枕、テオリーくん1号、2号を、併用して使用すると、効果が上がり、それと同時にヘルニアを予防し、人体S字形脊椎の矯正に役立つ事を示した図。 30

【図8】姿勢を悪くして、する仕事、業務を日々継続すると、人体、S字形、脊椎から、逆C字形脊、に変わり、ヘルニアを起こし易い図。

【図10】休憩中、必ず眠れる魔法の枕、テオリーくん2号を椅子、腰掛けで使用すると、ヘルニア防止に絶大な効果を表わし、居眠りも誘う事を示した図。

【図9】運転者悪姿勢図

【符号の説明】

①、後頭骸骨図。人体の目線の上下加減を安定させ、グラ付きを無くす為、備ゆ

り、首筋肉に連結する骸。

▲2▼、後頭骸筋図。人体の目線の上下加減を安定させ、グラ付きを無くす為、後頭骸骨と繋がる筋肉。 40

▲3▼、筋肉血管図。人体の目線の上下加減の案定を測るべく、主として、後頭骸筋に栄養(血液)を常時補給すべく、伸縮自在の血管であり、この

血管に血液が補充され続けると、後頭骸骨(センサー)が緊張を

感知し、自、神経を経由させ、大脳に伝令を送るシステムとなる。すると、人若しくは、動物は眠れなくなり、不眠症となる。

▲4▼ 頭皮図。

▲5▼ 頭骨図。

▲6▼ 海馬図。旧脳の事であり、主に（高等動物の）生体系原型に係る記憶を司り、臨床心理学の領域となる。昼間は殆ど眠った状態にあり、夜る中枢神経大脳が眠った時、起き出し、昼起きて活動し続け、中枢神経に貯まった中枢神経の諸情報を整理し、レム周期に合わせおいて、海馬に近い所からそれらを順に吐き出し、中枢神経へと送り返し込み続ける事を職務としている。（海馬を良心の源と考える学派もある。）

▲7▼ 大脳図。新脳の事であり、主に（高等動物）の生活系に直接関かわる常時必要な諸情報を（夜る起きて働らく海馬に整理され）順次中枢神経に貯え、海馬の就眠に合わせて起き出し、働らく時、シナプス、インパルス等の電子信号を発生させ、互いに連絡を取り合い続けるが、近在情報のみを殆ど取得する、旧体情報をほぼ持たず、之を枢使する。夜る眠ると、ここにバネの様に収蓄した（図1▲1▼、被労）、その日その日の新情報を一度にドツと、旧脳海馬に吐き出す時、（人は）深い眠りに入ったという。（疲労回復ともいう）すると海馬が起き出し、大脳が吐き出した諸情報を凝縮したバネの様に受け取め、その膨大量の諸情報の支訳けを約8時間かけて取り行ない、整理が付くとレム期に同調し、大脳を起こし、海馬の近い所から順逆する、いらぬ不要な情報から、必要な情報を大脳に送り込み続ける事となります。

▲8▼ 大脳皮質図。新進脳であり、主に（高等動物の）生活系に直接係かわる、目、手足、指等を瞬間に動かす命令指揮系統を司る脳であり、その動きの判断、指揮系統は大脳にある。フェンシング、剣道、レーシングドライバー等他、読書家、コンピューターオペレーターをに活字を読むべく、大脳被質の俊発、俊敏性を必要とする職業人は

この脳の発達が吐盛となる事と共に、後頭骨髄、筋、血管が発達し

、まばたきが少なくなります。

▲9▼ 小脳、延髄 原始脳であり、下等動物、高等動物にある心臓、他内蔵、呼吸機図関の様に、一が動くと二が動き、二が動くから連動して又一が動くという様に規則正しい動きを調整させ、永久にこれを持続させようとして働く事を職務としている神経束と調整器的役割を果す器官。

▲10▼ インパルス、シナプス直線ベクトル図。

人、動物等は、昼起きて太陽光（パルス）の多い時、その必要なパルス電子波長を脳の一部、眼を進化させ、体内に多く取り入れた時、同時にそれを体内に取り込み蓄電する、シナプス放電化現象（シナプス）を作り上げ、パルスが発生する日照時、変換するシナプスを同力の電子として体内に発生させます。それ故、生物は目の見える限りの範囲を自体と同化させる事の認識を得る事が出来ます。

分り易く言うと、

▲11▼ インパルス、シナプス曲線ベクトル（バネ状ベクトル）図。

人の目が百M先の光影を認識出来るのは、百M先にある光影がパルス波動（波長）で入力されている眼球網膜に写し出される時、同出力の体内（脳神経）に蓄電しているインパルス（バネ状、曲線ベクトル状パルス）がシナプスに変換し、放電化現象する発生し、眼球レンズで増幅し、百M先までの光影（目標物）にまでこれを飛ばします。この時、パルス外力とシナプス発生する内力は等しく、バネ状に畜積されてから吐き出されるシナプス電子は、パルス外力電子波動と等しく、同化する周波数を情報波数とする視神経（大脳）が之を認識した時、人（若しくは動物）は始めて物を見た。といます。

論証論理は多く有りますが、面白い物を少し例えに揚げてみます。

▲12▼、目、目線を示した図。

夜る、猫、ワニ、ヘビ、引いては鷹、鷲等の眼が光って見えるのは、実に月光の少ないパルス電子を体内に取り込み、その脳内にある視神経バッテリーで増幅するまでは光りません。又、得物を掴ろうとしている時以外は極って光らないのも事実です。その体内に貯えたロドプシンをシナプスに変換すると、脳に疲労が走りせつかく貯えたシナプス電子を使い果してしまうからです。更に面白い例えは、生死を賭けた様な争いをしている人間にも、この脳内で増幅するシナプス電子の輝光は走ります。薄暗いリングの中で、相手の細い急所やスキを狙っている時のボクサーや、四面を敵に囲まれて敗走する兵隊達の目は猫と

同等くらいまで光ると言われ怪談話しにさへなります。蛙が蛇に睨まれて動けなくなるのも、この蛇が発する強いシナプス電子が蛙の視線を破り蛙の視神経を破壊するからです。これを何度も繰り返すと蛙は蛇を恐れなくなります。(戦急心理学)

しかしながら、この強いシナプス電子を発するのは男性ばかりではありません。嫉妬に狂った女性が、やはり、これと同等の電子を放った。と学会の裏話しであり、蛇にも勝った揮光であり、この視先を見た世の掘強な男性は石の様に固くなり動けなくなったので、ギリシア神話のゴーゴンに祭られているので本論文は書き添えて置くものとなります。

然るに、修業をして仙人となった超人は言うに及ばず、人類と同じ目を持ちながら、4 M先の物を認識できる鷹、鷲など鳥類は人類と違って、その脳視神経内に外出力として1000/parusのインパルスから発生したシナプス電子を変換して、出力させているものであり、この時、鳥は4 M先の鼠を認識した。という。

立証論証は、液化水素を燃やし陽電子(パルス)を発生して航行する巡行ミサイルトマホークを打ち落とす(カメラ)パトリオットミサイルの発射台には、このシナプス赤外線出力装置が装着しているものであり、トマホークが出力するパルスと迎撃ミサイルが照準するシナプス電子出力、及び速度、距離を合わせれば、いかなる攻撃ミサイルをも迎撃できる科学を現代、米国、国防省筋は持っているが、日本国、科学技術庁は未だ持ち合わせてはいない。

しかしながら本題はそこではない。現代日本人に多い、近視であるが、その現因は、本、発明にある図1、図2、図3により、図1▲12▼にある目線の距離をして人体は、入力1000/parusとする時、(速度は無視)当然、体内に同時に1000/sinaps出力の電子が発生しているもの(能力)であったが、日々平均、本を読む、50cm/parus=50cm/sinapsの行動をしていたとすると、950cm/parus=950cm/sinapsづつその発生シナプス電子が脳内視神経に残存(疲労の原因として残る)事になるが、常時、平均1000/si、シナプス電子発生を人体視神経に発電しなければならない(能力の)宿命にある時、常時1000si/calを発生させる栄養(血液)を人体、後頭骸筋▲2▼の中にある、血管▲3▼の中に貯えておかなければならない状態(うっ血)

が持続する時、後頭骸筋の緊張は緩まず、この筋の緊張は、大脳、視神経を刺

激し続けるので、同時に自律神経▲9▼をも刺激され続ける所となり、大脳の刺激が緩んで、これが眠らない限り、海馬の活動が発生せぬ所となり、記憶力が低下し、記憶力が低下すると、大脳は、それを取り戻そうと常に働き始め、中枢神経に情報が集まらず、躁うつに関する、精神病理学において、うつ傾向が始まり、同意を得たかの様に大脳視神経は眼球神経に近い所ばかり見る様命令し、眼球神経は、萎縮を限り無く開始し始めます。これが近視の正体であり、目が見えなくなってゆくので、性格は細かくなり、内向且つ引っ込み思案となってゆきます。(心理学)。—反対に、その多くの時間を睡眠に費やし、多くの睡眠時間を摂取し続ける行動をし続けた人は、躁状態大らかとなり、必要以上の散策や外向心旺盛となり、目線は遠視傾向が増えます。しかしながら、脳解剖、生理学上、大脳の活性化が進み過ぎ、普段、閉じておかなければならない様な、海馬の記憶が中枢神経に流れ込む為、やはり悪い弊害が起り易くなります。常識や認知力低下の傾向が多く見受けられる様になります。(心理学)

▲13▼、必ず眠れる魔法の枕、テオリーくん1号、を示した図。

▲14▼、必ず眠れる魔法の枕、テオリーくん2号、を示した図。

▲15▼、脊椎、人の脊椎は、直立歩行する為、S字形をしている。ところが、悪い姿を余議なくされがちな、事務職や、車両運転手業におけるタクシー、クレーンコンボ、長距離運転手業の人々は、退職すると、必ず、腰を痛め、曲がってしまうという神話があり、これは事実に基づく実話であったが、その論理は、

これらの人々は、人体生理機能学上、その日々の業務中、これらの荷重を保持し、直立歩行するのに向き、有利な、S字型脊椎曲線を強制的に丸め▲15▼る為、逆Cの字型の脊椎構造曲線を作ってしまった。その為、これらの人員では、その業務中、荷物の積み降しも取り行なわれる場合も多く、その悪癖でズレ易くなっている(これがヘルニ

10

20

30

40

50

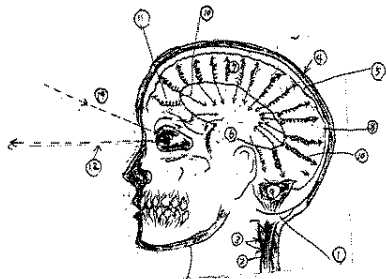
アの正体) 逆Cの字型になっている、(特に) 腰背に体重荷重をかけて、曲げては起こす動動を繰り返した時、耐えかねた腰背がいきなりズレる時、ギックリ腰 (ヘルニア) となるべく生態メカニズム現象を現代、医学外科学会には報告されていない。(論文がない。特許論文となる。)

それ故、休憩中の運転席や就寝前に、「必ず眠れる魔法の枕、テオリークン2号を人体、腰部▲14▼に入れて歪曲した逆Cの字形曲線を矯正し、S字曲線の戻してやると、この業種のギックリ腰 (ヘルニア) は壊滅してなくなる程の絶大な効果があります。又、この枕を▲17▼の場所に当てがうと、やはり、大脳、小脳、自律神経と連動する機関である脊椎は、目線が狂ったものである。と錯誤し、大量のレテプシン (大脳覚醒物質) を発生させ、深い眠りに陥る事が出来る事と共に、不眠症を解消出来る他、脊椎のS字矯正にも

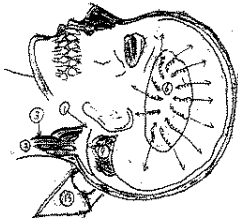
10

- ▲16▼、S字型脊椎曲線を示した図。
- ▲17▼、逆C型脊椎曲線を示した図。
- ▲18▼、椅子、運転席シートを示した図。
- ▲19▼ パルス電子 (太陽光線の中にある電子) を示した図。
- ▲20▼ 極大嫌悪記憶 (トラウマ) を示した図。

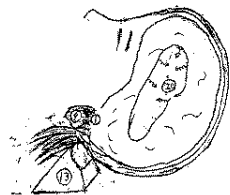
【図1】



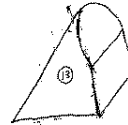
【図2】



【図3】



【図4】



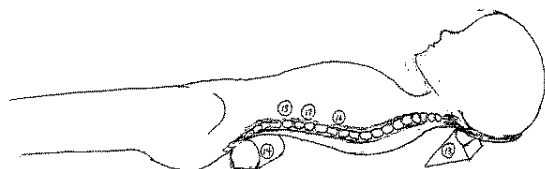
【図5】



【図6】



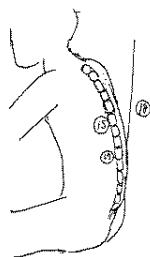
【図7】



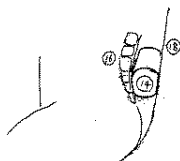
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【手続補正書】

【提出日】平成15年4月16日(2003.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】4度(心神喪失状態)になる重度になると、喜怒哀楽をして、泣き、笑うの区別がつかなくなり、奇行としては、夢遊症を併発し、昼夜別なく行動し、他者を殺傷する報告があるが、当人に自覚は有りません。目先定まらず。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】又、人動物(犬猫)をする、他、多くの動物等は、ストレス性疲労肥満(高脂結晶酸化物体内堆積)、他あらゆる理由により、この髓▲1▼、背筋が固まり始めると就眠中、いびきをかき、低周波の振動を発生させ、この髓▲1▼、筋▲15▼の凝り固まりを緩和させ、身の老化を防ぎ、身のしなやかさや、柔軟性を保とうと努め始めます。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明

【補正方法】変更

【補正の内容】

【符号の説明】

- ▲1▼、後頭骸髓図。人体の目線の上下加減を安定させ、グラ付きを無くす為、備わり、首筋肉に連結する髓。
- ▲2▼、後頭骸筋図。人体の目線の上下加減を安定させ、グラ付きを無くす為、後頭骸髓と継がる筋肉。
- ▲3▼、筋肉血管図。人体の目線の上下加減の案定を測るべく、主として、後頭骸筋に栄養（血液）を常時補給すべく、伸縮自在の血管であり、この血管に血液が補充され続けると、後頭骸髓（センサー）が緊張を感知し、自律神経を経由させ、大脳に伝令を送るシステムとなる。すると、人 若しくは、動物は眠れなくなり、不眠症となる。
- ▲4▼ 頭皮図。
- ▲5▼ 頭骨図。
- ▲6▼ 海馬図。 旧脳の事であり、主に（高等動物の）生体系原型に係る記憶を司り、臨床心理学の領域となる。昼間は殆ど眠った状態にあり、夜る中枢神経大脳が眠った時、起き出し、昼起きて活動し続け、中枢神経に貯まった中枢神経の諸情報を整理し、レム周期に合わせおいて、海馬に近い所からそれらを順に吐き出し、中枢神経へと送り返し込み続ける事を職務としている。（海馬を良心の源と考える学派もある。）
- ▲7▼ 大脳図。 新脳の事であり、主に（高等動物）の生活系に直接関かわる常時必要な諸情報を（夜る起きて働く海馬に整理され）順次中枢神経に貯え、海馬の就眠に合わせて起き出し、働らく時、シナプス、インパルス等の電子信号を発生させ、互いに連絡を取り合い続けるが、近在情報をのみを殆ど取得する、旧体情報をほぼ持たず、之を枢使する。夜る眠ると、ここにバネの様に収蓄した（図1▲1▼、被労）、その日その日の新情報を一度のドツと、旧脳海馬にはき出す時、（人は）深い眠りに入ったという。（疲労回復ともいう）すると海馬が起き出し、大脳が吐き出した諸情報を凝縮したバネの様に受け取め、その膨大量の諸情報の支訳けを約8時間かけて取り行ない、整理が付くとレム期に同調し、大脳を起こし、海馬の近い所から順送する、いらぬ不要な情報から、必要な情報を大脳に送り込み続ける事となります。
- ▲8▼ 大脳皮質図。新進脳であり、主に（高等動物の）生活系に直接係かわる、目、手足、指等を瞬間に動かす命令指揮系統を司る脳であり、その動きの判断、指揮系統は大脳にある。フェンシング、剣道、レーシングドライバー等他、読書家、コンピューター オペレーターをに括字を読むべく、大脳被質の俊発、俊敏性を必要とする職業人はこの脳の発達が旺盛となる事と共に、後頭骸髓、筋、血管が発達し、まばたきが少なくなります。
- ▲9▼ 小脳、延髄図 原始脳であり、下等動物、高等動物にある心臓、他内臓、呼吸機関の様に、一が動くとなが動き、二が動くから連動して又一が動くという様に規則正しい動きを調整させ、永久にこれを持続させようとして働く事を職務としている神経束と調整器的役割を果す器管。
- ▲10▼ インパルス、シナプス直線ベクトル図。
人、動物等は、昼起きて太陽光（パルス）の多い時、その必要なパルス電子波長を脳の一部、眼を進化させ、体内に多く取り入れた時、同時にそれを体内に取り込み蓄電する、シナプス放電化現象（シナプス）を作り上げ、パルスが発生する日照時、変換するシナプスを同力の電子として体内に発生させます。それ故、生物は目の見える限りの範囲を自体と同化させる事の認識を得る事が出来ます。
分り易く言うと、
- ▲11▼ インパルス、シナプス曲線ベクトル（バネ状ベクトル）図。
人の目が百M先の光影を認識出来るのは、百M先にある光影がパルス波動（波長）で入力されている眼球網膜に写し出される時、同出力の体内（脳神経）に蓄電しているインパルス（バネ状、曲線ベクトル状パルス）がシナプスに変換し、放電化現象する発生し、眼球レンズで増幅し、百M先までの光影（目標物）にまでこれを飛ばします。この時、パルス外力とシナプス発生する内力は等しく、バネ状に蓄積されてから吐き出されるシナプス電子は、パルス外力電子波動と等しく、同化する周波数を情報波数とする視神経（大脳）が之を認識した時、人（若しくは動物）は始めて物を見た。といひます。
論証論理は多く有りますが、面白い物を少し例えに揚げてみます。

▲12▼、目、目線を示した図。

夜る、猫、ワニ、ヘビ、引いては鷹、鷲等の眼が光って見えるのは、実に月光の少ないパルス電子を体内に取り込み、その脳内にある視神経バッテリーで増幅するまでは光りません。又、得物を掴ろうとしている時以外は極めて光らないのも事実です。その体内に貯えたロドプシンをシナプスに変換すると、脳に疲労が走りせつかく貯えたシナプス電子を使い果してしまうからです。更に面白い例えは、生死を賭けた様な争いをしている人間にも、この脳内で増幅するシナプス電子の輝光は走ります。薄暗いリングの中で、相手の細い急所やスキを狙っている時のボクサーや四面を敵に囲まれて敗走する兵隊達の目は猫と同等くらいまで光ると言われ怪談話しにさへなります。蛙が蛇に睨まれて動けなくなるのも、この蛇が発する強いシナプス電子が蛙の視線を破り蛙の視神経を破壊するからです。これを何度も繰り返すと蛙は蛇を恐れなくなります。(戦争心理学)しかしながら、この強いシナプス電子を発するのには男性ばかりではありません。嫉妬に狂った女性が、やはり、これと同等の電子を放った。と学会の裏話しであり、蛇にも勝った輝光であり、この視先を見た世の掘強な男性は石の様に固くなり動けなくなったので、ギリシア神話のゴーゴンに祭られているので本論文は書き添えて置くものとなります。

然るに、修業をして仙人となった超人は言うに及ばず、人類と同じ目を持ちながら、4M先の物を認識できる鷹、鷲など鳥類は人類と違って、その脳視神経内に外出力として1000/parusのインパルスから発生したシナプス電子を変換して、出力させているものであり、この時、鳥は4M先の鼠を認識した。という。

立証論証は、液化水素を燃やし陽電子(パルス)を発生して航行する巡行ミサイルトマホークを打ち落とす(カメラ)パトリオットミサイルの発射台には、このシナプス赤外線出力装置が装着しているものであり、トマホークが出力するパルスと迎撃ミサイルが照準するシナプス電子出力、及び速度、距離を合わせれば、いかなる攻撃ミサイルをも迎撃できる科学を現代、米国、国防省筋は持っているが、日本国、科学技術庁は未だ持ち合わせてはいない。

しかしながら本題はそこではない。現代日本人に多い、近視であるが、その現因は本、発明にある、図1、図2、図3により、図1▲12▼にある目線の距離をして人体は、入力1000/parusとする時、(速度は無視)当然、体内に同時に1000/sinaps出力の電子が発生しているもの(能力)であったが、日々平均、本を読む、50cm/parus=50cm/sinapsの行動をしていたとすると、950cm/parus=950cm/sinapsづつ、その発生シナプス電子が脳内視神経に残存(疲労の原因として残る)事になるが、常時、平均1000/si、シナプス電子発生を、人体視神経に発電しなければならない(能力の)宿命にある時、常時1000si/calを発生させる栄養(血液)を人体、後頭骸筋▲2▼の中にある、血管▲3▼の中に貯えておかなければならない状態(うっ血)が持続する時、後頭骸髄▲1▼の緊張は緩まず、この髄の緊張は、大脳、視神経を刺激し続けるので、同時に自律神経▲9▼をも刺激され続ける所となり、大脳の刺激が緩んで、これが眠らない限り、海馬の括動が発生せぬ所となり、記憶力が低下し、記憶力が低下すると、大脳は、それを取り戻そうと常に働き始め、中枢神経に情報が集まらず、躁うつに関する、精神病理学において、うつ傾向が始まり、同意を得たかの様に大脳視神経は眼球神経に近い所ばかり見る様命令し、眼求神経は、萎縮を限り無く開始し始めます。これが近視の正体であり、目が見えなくなってゆくの、性格は細かくなり、内向且つ引っ込み思案となってゆきます。(心理学)。——反対に、その多くの時間を睡眠に費やし、多くの睡眠時間を摂取し続ける行動をし続けた人は、躁状態大らかとなり、必要以上の散策や外向心旺盛となり、目線は遠視傾向が増えます。しかしながら、脳解剖、生理学上、大脳の活性化が進み過ぎ、普段、閉じておかなければならない様な、海馬の記憶が中枢神経に流れ込む為、やはり悪い弊害が起り易くなります。常識や認知力低下の傾向が多く見受けられる様になります。(心理学)

▲13▼、必ず眠れる摩法の枕、テオリーくん1号、を示した図。

▲14▼、必ず眠れる摩法の枕、テオリーくん2号、を示した図。

▲15▼、背椎、人の脊柱は、直立歩行する為、S字形をしている。ところが、悪い姿勢

を余議なくされがちな、事務職や、車両運転手業におけるタクシー、クレーンコンボ、長距離運転手業の人々は、退職すると、必ず、腰を痛め、曲がってしまうという神話があり、これは事実に基づく実話であったが、その論理は、これらの人々は、人体生理機能学上、その日々の業務中、これらの荷重を保持し、直立歩行するのに向き、有利な、S字形背椎曲線を強制的に丸め▲15▼る為、逆Cの字型の背椎構造曲線を作ってしまうものであった。その為、これらの人員では、その業務中、荷物の積み降しも取り行なわれる場合も多く、その悪癖でズレ易くなっている（これらがヘルニアの正体）逆Cの字型になっている、（特に）腰背に、体重荷重をかけて、曲げては起こす動作を繰り返した時、耐えかねた腰背がいきなりズレる時、ギックリ腰（ヘルニア）となるべく生態メカニズム現象を現代、医学外科学会には報告されていない。（論文がない。特許論文となる。）

それ故、休憩中の運転席や就眠前に、「必ず眠れる摩法の枕、テオリーくん2号を人体、腰部▲14▼に入れて歪曲した逆Cの字形曲線を矯正し、S字曲線に戻してやると、この業種のギックリ腰（ヘルニア）は壊滅してなくなる程の絶大な効果があります。又、この枕を▲17▼の場所に当てがうと、やはり、大脳、小脳、自律神経と連動する機関である背椎は、目線が狂ったものである。錯誤し、大量のベーターエントロフェン（大脳覚醒物質）を発生させ、深い眠りに陥る事が出来ると共に、不眠症を解消出来る他、背椎のS字矯正にも役立つものとなります。

▲16▼、S字型背椎曲線を示した図。

▲17▼、逆C型背椎曲線を示した図。

▲18▼ 椅子、運転席シートを示した図。

▲19▼ パルス電子（太陽光線の中にある電子）を示した図。

▲20▼ 極大嫌悪記憶（トラウマ）を示した図。

▲20▼、極大嫌悪記憶（トラウマを示した図。

▲21▼、時計入凹（くぼち）を示した図。

▲22▼、カレンダー入凹（くぼち）を示した図。

▲23▼、スライドカートリッジ式、枕の先端の図。

▲24▼、時計の図。

▲25▼、カレンダーの図

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図11

【補正方法】追加

【補正の内容】

【図11】必ず眠れる摩法の枕、テオリーくん1号の符品図

【手続補正5】

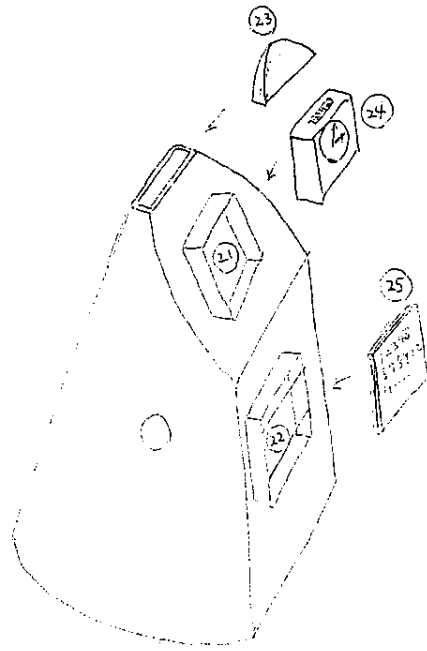
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図11

【補正方法】追加

【補正の内容】

【図 11】



【公報種別】 特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第1部門第2区分
 【発行日】 平成17年9月15日(2005.9.15)

【公開番号】 特開2004-305689(P2004-305689A)
 【公開日】 平成16年11月4日(2004.11.4)
 【年通号数】 公開・登録公報2004-043
 【出願番号】 特願2003-146994(P2003-146994)
 【国際特許分類第7版】

A 6 1 M 21/02

A 4 7 G 9/10

【F I】

A 6 1 M 21/00 3 0 0 Z

A 4 7 G 9/10 V

【手続補正書】

【提出日】 平成17年3月3日(2005.3.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【書類名】 明細書

【発明の名称】

必ず眠れる枕(テオリーくん1号)腰痛防止腰枕(テオリーくん2号)香り、クシャコップ(テオリーくん3号)貯金箱型、必ず眠れる枕(テオリーくん4号)

【特許請求の範囲】

本発明品は、後頭髄髄とされる人体の頭骨を頸筋が固定せざるべく、そこにストレスで貯まる汗や血液が緊張した種、この発明がセンサーの後押しを果し、大脳、自律神経を過敏にする時、不眠症や老化現象を起すものとなり得る、他、

悪い姿勢を続けた場合、人体。S字形背椎がC字形背椎型に歪曲変形し、このストレスが、同様に連動する大脳、自律神経に伝達される時、やはりうっ血が生じ、血液が滞り、不眠症や老化現象を起す原因となる時、それにより歪んだ背椎に繰り返し加重がかかって、ズレを起す時、これが主たる椎間板ヘルニア症の原因となります。旨、新医学、学説見地が発見される請求をして、

【請求項2】

この様な原因のある時、本発明される「必ず眠れる魔法の枕(テオリーくん1号、)品を、人体、後頭部にある後頭骸骨に頭の荷重4~6kg重を

が、押しつける様にし、作用する時、頸が首線の歪みと傾斜し、自律神経緊張緩和を連動し、不眠症を起す治療効果がある事への請求。

【請求項3】

人体が悪い姿勢を続けると、背柱にある、S字形背椎が、C字形、背椎型に歪曲変形を来たし、このストレスが同様に連動する、悪姿勢部位に対し、うっ血(疲労)が生じ、それが原因して血液に滞りが生じ続ける時、そこにズレが生じて椎間板ヘルニア症を起す事が認められる時、人体腰部に、本発明される、「必ず眠れる枕(テオリーくん2号)品をこれに入れ、横になり、体重をかけると、歪曲されたS字形背柱は矯正され、うっ血(疲労)が取れる事と共に、ヘルニア症の予防に絶大な効果がある事を発見し、発明される事への請求。

【請求項4】

本発明を使用し、後頭骸骨、椎間板等を用いて、その緊張を緩め、矯正せしめ、いびき症が治る事を発見し、発明する事への請求。

【発明の詳細な説明】

【0001】

大概この世に生を得て動く動物は「何故、睡眠をとり、何故に夢をみるものであるか？」という睡眠メカニズムから論証する事をして生体機能、解剖学見地において、何故、人は不眠症に陥り、どの様にしたら、不眠症から解放されるものであるか？を考証論理を基として、解説する時、本発明品が絶大な効力を発揮する由以を科学的に解説されるものとする。

【0002】

本題に入る。——高等動物には、旧脳（海馬）、大脳（中枢脳）、大脳皮質（新進脳）、小脳（延髄の中枢神経）延髄（神経束支脳）をする四要素から構成される、脳（神経調整、認識機能器）があった。

【0003】

「動物の体は、夜る寝むって休憩を取るが、脳だけは24時間、眠る事は無い。」という意見を聞いた事があった。当該しないものであった。昼夜休まず活動するのは、脳であって、脳でない原始脳と呼ばれる動物体枝神経の固まりを束ね、連動させ続ける延髄と、その調整を計る小脳と呼ばれるものであって、一が動くると二が動くから一は再連動して動き続ける相対連動する枝神経群の束を、永久に同調子で連動させ続け様として、造られて来たものが、原始脳の事であり、アミーバー、クラゲ等が、この脳を持っていた。

【0004】

更に分かり易く説明すると、人が水に溺れ、心肺停止の仮死状態で全ての生活機能がストップ（仮死状態）したとしても、人工呼吸、心臓マッサージを時間内に規則正しくして、これに蘇生術として、施すと、この原始脳が二の動作するべく、連動して動き出し、再び、動物体全ての生活機能が甦生し、無窮動し続けるものとなる。という論証を以って、小脳、延髄の解説を終わり、旧脳（海馬）とその調整、調節機管、大脳（中枢神経）、及び大脳皮質（新進脳）の大綱解説に移行する。（以後は、高等動物の脳構造解説となる。）

【0005】

常に敏捷に動く事を必須要素として、進化した動物を例えに揚げ、魚類とし、新進脳（大脳皮質）のこれを急速に進化させる過程を経て、上記、四要素の脳を満している。とし、（進化説）

【0006】

次に極だって学習能力を必須要素として、進化した動物達を例えに揚げ、これを哺乳類とし、中枢神経（大脳）を急速に進化させる過程を経て、上記述四要素脳のこれを満している。とします。

【0007】

然るに本題において、敏捷な動きを常用必須とする魚類。及び、学習能力を常用必須とする哺乳類。いずれにおいても、それらの者達は、頭部をグラつかせる事なく、固定させ、その視線を一定に定めさせる事が出来なければ致命的となる事の理を得て、魚類は、

その首にある後頭骸骨と、後頭骸骨を固め、はば、首が動かない様にして、自体を進化させるものであったが、

【0008】

しかしながら、動きも比較的鈍い哺乳動物では、むしろ、学習能力を重視するべく、その視線を固定させながら、頭部を前後、左右に

自在に動かせる様に進化するものであり、知能を発達させ、骨の頭骨を頑強に固定させるべく、後頭骸骨、後頭骸骨、無骨、

を異常な程まで、発達させ続けるものであった。

【0009】

それ故、これら高等動物の持つ脳のうちの海馬は、動物の通常（昼間の）活動時間帯は

、深眠に入っており、大脳（中枢神経）と新進脳（大脳皮質）とだけのやりとりで、生活しておりますが、およそ、8～10時間近くになり、これらの脳の稼働に就眠が来ると、メラトリン（覚酔物質）が分泌されて、この脳の稼働をしっかりとマヒさせた時、大脳、及び新進脳は、「眠りに入った。」と呼び、これが眠り」の正体です。すると、代って、海馬（記憶中枢）が起きだして、昼間、大脳と新進脳の間でやりとりされた、その日の諸情報の収集分析に入り、およそ、同時間の8～10時間かけて、分析し、日常生活稼働時間帯に不必要な（安全、危険、食事、排泄、性殖、移動、眠…等）諸情報を、そこに残して、纏まりが付くと、 β エンドロフィン

という形で、覚酔物質を大脳、新進脳に送り、眠りを深め、危険予察(4期)に切り替えさせて、その必要なる諸情報を、大脳、中枢神経

に送り返す現象が起こる時、この時、人、動物は夢をみます。（これが夢の正体であり、臨床心理学の領域となります。）この様に、通常は、昼、海馬が眠って、大脳が起き、働いているものであった時、絶大であり、

昼、稼働時間帯に、急に、危険が生じ、任意性、ストレス性を問わず、大脳から、これが原因する大脳から、緊急命令が発令された時、大脳（中枢神経）にレム期によって、貯えられただけの諸情報では、絶対的不足する時、深眠中の海馬が叩き起こされる事となりますが、その時の用方は、人、動物は気絶（メラトリン、他 β エンドロフィン大量分泌の為）する事となります。危険が去り、意識を取り戻した後に、大脳が、安全宣言をしたとしても、後遺症（トラウマ）として、暫く体が動かない事がしばしばあります。それは、先述する普段、昼、就寝中にある海馬が大脳が発する緊急指令におどろいて、叩き起こされ、インパルス電子大量発生し、同時に、大脳で発生すべくシナプス電子を呼応する大脳で発生させず、（大脳主幹通路を經由させず）、大量のシナプス電子を海馬で呼応させ、（シナプスのワープ。第六感。テレパシー等）海馬は、それを直接、小脳、延髄、自律神経に順に伝えてゆくの、インパルス=シナプス⇒意識の関係は成立しなくなります。

【0010】

この様に、大脳主幹神経を經由せず、いきなり、海馬から小脳に強い刺激で働きかけがあると、この時、小脳及び自律神経はまず

後頭神経を安定させるべく、脊髄に保つ緊張が走り、活性酸素を多く含む濃い血液を背筋、後頭神経、血管に大量に送り

込みます。すると、椎間板、他に、緊張が走り、それぞれ、個々にデタラメな萎縮が走る（併害として、40、50肩痛症など）他、無意識症候群（自律神経失調症）が併発する時、体調、体面にさへ変化、兆候の変化を見せ始め、（これらは海馬の不眠症という。）

【0011】

軽度の際には、第一度として普通にして生じる不眠症（海馬の不眠症が原因する）、独り言、性倒錯症、独り言、白髪、シワ、倦怠感、脱毛、等に見られ、第二度に進むと、夜光性、自問自答する独り言、昼に生じる倦怠感、他、急激な白髪化、脱毛症、シワによる老化現象の身体的特徴が見られる他、大脳（前頭葉）は、海馬（記憶神経）の為す行為をいちいち、著しく、危険な行為と判定する錯誤から、引き籠り症を併発する様になります。

【0012】

そして、第三度に進むと、微眠む事、眠っている時間が多くなり、寝言や、奇声を発する事が多くなり、自制心がなくなり、反社会的行為、（護身物等の保持）が目立つ様になり、引き籠りは病的に強くなってゆきます。心神こう弱状態（大脳に β エンドロフィンが流れ、メラトリンが拒絶されます。）

【0013】

第四度（心神喪失状態）になる重度になると、喜怒哀楽をして、泣き笑うの区別がつかなくなり、奇行としては、夢遊症を併発し、昼夜別なく（特に学校、工事現場等を）徘徊し、他者を殺傷する等の報告があるが、当人に自覚はありません。目先定まらず、

【0014】

第五度になると、喜怒哀楽が無くなり、治産者行為は不可能となります。その由以は、前記する急激であり、度を越えた脳間絶交（精神分裂）症が起こる為、記憶（その間の意識）が無くなってしまふ後遺症が理由にあった。極単な例が記憶喪失症であり、就眠中、主に高い所、ビル学校、給食施設、工事現場、割れ目（暗部）等に見られる部位を歩き廻わって帰宅する夢遊症がそれである。これら患者のいずれの後頭

骸骨に就てみると石の様に固く固まっている場合があった。これが精神不安定を起す理由でもあった。

【0015】

人物の体内にこの様なシステムがある時、人物の目々にある強いストレス(不満)の蓄積は、活性酸素の誘発を招き、特に頸部にある、急激なストレス(有時)に備え、この鍵を絶対的頑強の元は、その目標を保守しなければ、壊れた首振り人形の様に首を乱舞する結果になり、

平行感覚が取れなくなるに至り、致死存命を危ぶむ事になりかねます。それ故、血液は常時、ここ__に大量にストック（常持）していなければならず、

【0016】

然るに、本発明品である、「必ず眠れる摩法の枕、テオリーくん1号__を本図6に示す__位置に頭の重さ、5～6kgの荷重をかけて、__押しつける様にし、

枕として使用すると、ストレスによる大脳の指令が通らなくなり、あらゆる余剰血液を切断する事になり、張り過ぎた棘い神経センサーが急速に血液が薄れたと錯誤すると同時に、後頭部のグラクキと錯覚し、小脳が危険と判断する事で、大脳に眠らせる睡眠液が出、大脳を

う為、気を失った勢いで、人、動物は、深眠に陥る事が出来ます。

【0017】

人動物(犬、猫)とする他、多くの動物等は、ストレス性疲労、肥満(高脂結晶酸化物体内推積)、他、あらゆる理由により、この鍵、脊筋が凝り、固まり始めると、就眠中、いびきを聞き、後頭部の振動を発生させ、この鍵、筋の凝り、固まりを緩和させ、体の死化を防ぎ、脳の

しなやかさや柔軟性を保とうと努め始めます。

【0018】

その為、いびきをかき始めたら、すぐに本発明品枕、テオリーくん1号、2号をそれぞれ、本図の示す指定の場所に当てがって、それらの緊張を解いてやると、いびきは停止するものであった。又、ヘルニア症予防に対する効果があり、

【0019】

本発明品は精神を安定させる為、ニコチン症、アルコール依存症への治癒緩和にも、これをペアで使用して役立つものでもあった。

【0020】

【従来の技術】

有史時代の文献において、不眠症、白髪、若ハゲ、シワ、肩凝り、頭痛、近視、乱視、遠視、いびき、ニコチン、アルコール依存症、腰痛症に悩み苦しむ人々の苦しみが描かれていたのを見たが、人々は、薬学を突出させ、最近の多くの発明、考案に関する論文も見たが、これらを解消させる為、ベルト有り、

【0021】

ラドン温泉療法有り、ローラーを背に当てがい移動させ、背骨を矯正させる単立的考案。そして、電子や電機に目を付け、これに振動を与えさせる事、やがては、マグネット磁気を利用する血液の対流を良くし、帯磁力によるイオン化（血液が活発に動く）により流通をスムーズにさせ、これらの元凶ともなる汚れた（乳酸菌をして、高脂結晶酸化物体内推積）血液を首筋、肩から強制的に排出させようと務めるものであったが、

【0022】

それは、大脳が感知し、ストレスを発生し、本文に示すセンサーと43後頭部、頸筋、血管に緊張が走り、日々血液が滞留(鈍行)と沈澱物

(血垢)となり、これに乳酸菌(痛みを造る物質)が付き、チーズが出来る様に血垢は次第に固ってゆき、ドロドロとなり、筋内血管等に附着し、これに、更に強い酸を出す雑菌が付き始める時、石灰化が進み、あらゆる蛋白質、酵素をボロボロに分解してゆきます。

(2004-201208、齒槽膿漏治し歯磨参照)

【0023】

この現象が、持続し、生物体、毛細血管内に生じ、細胞を破壊し続ける時、上記述文章に示された、あらゆる老化現象、不眠症が生じてゆきます。

【0024】

この様な時、最近発明され続けている、やたら凹凸を付け、磁気を滞びた枕、副飾品、そして、ムチ打ち症に用いられる頸部固定器等をする、何ら、生体機能、メカシステムにある科学的根拠を得ない、この種に関しての駄作的な発明論文が山積され続けている現状を踏まえて、見当される時、

【0025】

これらの物品を例え人体頸部に当てがってみても、気休め低度に血行がよく、血液が活発に動き、頭部の重さが軽減したくらいに錯覚するが、熱ぐるしく、又、微弱振動を与える物は、脳しんとう現象(後述)を起こすので、既に廃れ、須く一時の流行を履しても、これらの発明品には、治癒効果の無い事にすぐに気が付くので、やがて消費者はこれらを購入しなくなり、自然消滅してゆくものであった。

【0026】

【発明が解決しようとする課題】

不眠症、白髪症、若ハゲ、シワ、肩凝り、頭痛、近視、乱視、いびき、ニコチン、アルコール依存症、腰痛症、精神症……等を緩和、治癒するのに為す、あらゆる枕や、副創品機能メカニズム、システム、そのものを科学的に理解してはいないで考案され続けているものばかりであったので、本論文は、それらを非定し、解明、解説し、考証論理に基づく動物実験をも用いて、発表し、本課題を次から示す様にして解決するものであった。

【0027】

本発明詳細で既説される、人動物、生体生理機能学上、海馬がストレス等、緊張を感知し、小脳、自律神経に刺激が興奮として、直接伝達される時、

目線を固定し、意識を鮮明にすべく、後頭頸髄、筋内血管に活性酸素を多く含む血液が補充され続け、後海馬から緊張が離れて、

原始脳(小脳)が興奮を残したままの刺激は、大脳を径由せず、自律神経に入り、小脳に記憶され、再び、大脳を径由して、海馬(記憶界)に入ろうとしても、海馬は受けつけません。分かり易く言うと、ここに脳間絶交症(精神分裂症)があります。即ち、戦争(受験戦争、就職戦争、戦争ゲーム等にある)で生死を分かた「自周囲にある動く者全てが(自分の命を狙う)敵である。」と言う訓練を受けた者(兵士)達は、乳飲み児を抱えた婦女子であっても、動けば、夢中の事として、戦車でひき殺しますが、罪悪感存在しません。然るに、これを繰り返し訓練した時、当人は無意識中にあるまま、人体の脳、海馬(記憶)と前頭葉(意識)の間に、多大なストレスとズレが生じ、やがて人知れずうちに、精神分裂症を来し、廃人となってゆきます。(臨床)心理学効果による。

【0028】

肩(後頭頸髄)のカモ抜けば、興奮が冷める。という言葉をよく聞く。その為、従来の発明技術論文では、この肩のカモ抜ける為、

昼夜を問わず、思考錯誤する微弱電気、電子を考案して後、やたら多くの凹凸をつけた枕を用いたり、副飾品に強力磁力を発する首飾りを考案し続けるものであったが、目線の喪失を計るべく、大脳の錯覚を起こさせる論理の元、これがして、

【0029】

しかしながら、上記述まで説明される神経過敏症に陥り、海馬の就眠が滞り、大脳(中枢神経)と伴に起き続け、海馬と原好脳が中枢神経(前頭葉等)の指令を無視し続け、絶対的命令の元に、この間で、相殺効果(この勝負に負けたら明日が無い。等の理由でもよい。)を表し、レム催眠効果中にある時など、興奮冷めやらぬ悪巡環に陥るべく人々がストレスのうちに増大する近年、これらの人々が、本発明品、枕を利用した場合、これら刺

激性

~~観察を中断すべきほど強い大脳覚醒物質(最初はアエトロン)が大脳に分泌され続けるので、海馬と大脳の順次就眠は、これを促す事が明確と~~

なってゆく為、人動物は、やがて、規則正しく、明確となってゆく為、人動物はやがて、規則正しい就眠をする事が出来るものとなった。

【0030】

本、発明されるテオリーくん2号枕はビン、コーヒーの空ビンで有効であり、この会社が、本枕テオリーくん1号をもペアで御製作下さればゴミ資源再利用に役立ち、全国民37%の不眠症に苦しむ人々の救済に役立つと願って止まない。

【0031】

【課題を解決する為の手段】

~~大、脈、他に青色、及び、白黒を交互に連写する8cmビネオを見せ続けると、後頭骸髄をつなぐ、筋血管に血液が異常に集まり、(サーモグラフィ)~~

後、目がうつろとなり、(目線を失う)よだれを垂らし始め(視床下部の圧迫刺激)、ひきつけをお起こし(大脳正常器回路遮断)て後、居眠り開始(意識喪失)事の報告で一手段とし、動物実験を続ける、

【0032】

~~大、筋、脈等の後頭骸髄、及び、腰背筋に本発明品を小型化したテオリーくん枕、1号、2号をバネバネで取り付け、次第に強く締めつけてゆくと、~~

微眠始めるものとなるが、雄動物の場合、性倒錯現象となり、性器の肥大(オーガズム)が見られる報告をし、二手段とし、

【0033】

今度は、これらの動物等の同じ位置に振動機を取り付け、微振動から順に強振動を与えてゆくと、目線を失う事、やがて動物は脳しんとうを起し、微眠んでゆく事を報告して、三手段。

【0034】

次に人体実験(自身実験)における、人をうつ伏せに寝かせ、のけぞる様に起こし続け(サバ折り姿勢)逆C字形の背骨形成を作り、目線はあくまでも、上方を見させ続けると、人動物は、目線を失い、視床下部が圧迫され、同時に微眠(意識障害)状態になる報告をする第四手段とし、人体実験を続ける事、

【0035】

人に本、発明品、テオリーくん枕1号2号を付け、就眠姿勢を取ってもらい、居眠りに入るまでの5~6分間、MRC、サーモグラフィック、脳波検値機をそれぞれ用い、検値してみると、大脳から急速に血行が引き、視床下部が、血液で、圧迫され、この体温が上がり、磁力が発生する他、

【0036】

トラック、タクシー運転手等で、腰を痛めている人員に、本枕、テオリーくん2号を30分程、当てがい使用してから、外し、サーモグラフィックを見ると、それまで、青みがあり、血行の悪かったS字曲線は改善(矯正)され、赤くなり、血行促進とともに、「治癒された。」という、証言を得る事で、本論文内容を解決する第五手段とします。

【0037】

【発明の実施形態】

~~横は、後頭背のつけ根部分にある軟骨を後頭骸髄、と呼ぶ、ここに、本発明品「必ず眠れる魔法の枕」を、寝に当たる様に、枕とし、~~

使用し、頭の重み(4~7kg)の全荷重をかけて、就眠姿勢を取ります。枕の形状は、先の丸いものから、先の鋭い物があり、特に近視、乱視のひどい人や、重度の肩凝りのある人は、この枕を初めて使用すると、強い痛みを感じます。(乳酸菌によるうっ血化現象

があるからです。しかしながら常人には、それは殆ど有りません。それ故、最初は、先初は、先の丸い形状の物を使用します。5～6分の時間のうちに、微眠み始め、意識を脱落するかの様に、深い眠りに陥って行く事は、枕から頭が落ちる事で、気が付きます。テオリークン1号枕は、後頭骸、眼傍つぼ以外に使用する事を厳禁（危険）とする為、本発明図に示す形状を理想の素形としているものであった。

【0038】

【実施例】

人間の体は朝、晩合計1時間の微眠む余暇時間の他、昼8時間に稼働時間、夕方8時間の準備時間、夜8時間の睡眠時間を要し、1日25時間の体内時計を持っています。そして、この様に時間設定できる人々を規則正しい生活を送っている人々といいます。ところが、めまぐるしい時間の動く現代、規則正しい生活時間設定が出来なくなっている人々をむしばみ、病的に不眠症と呼ばれる併害が起こる事があります。

【0039】

(不眠症とは?)

ところが、人々は、現代病として、流行する、不眠症と呼ばれるものの実態は殆ど分かっていません。不眠症とはストレス、他、あらゆる理由によって、人間が人間として、社会活動をする為に、1晩に継続して、約8時間以上必要とする纏った睡眠時間を摂取する事が出来ずに途中、途中頻繁に睡眠が中断され、夜中に目が冷めて、以後一切眠れなくなる事を言います。

【0040】

(不眠症の原因)

この様になると、血行不良、栄養不良、新陳代謝不良による老化衰退現象やあらゆる病気が、起こり易くなります。豊食の現代において、その大半は夜半コーヒー、紅茶ガブ飲みしたり、理不尽なダイエットや、栄養失調による空腹（ストレス）が大きな原因となる場合が多い様です。就眠前に適度な食事は必要です。

【0041】

(不眠症が起こる身体の特徴)

~~又、この時間を誤考するに、正面を疑視し、キーパンの取に有る人は、後頭骸、筋の乳酸値が上がり易い、これが硬化し鏡行り、自律神経が~~

過敏となり、就眠時における（小人でも）ひきつけや、両脚、腿等に頻繁にからす返りが起こり易くなり、睡眠（メラトリン分泌量）も少なく、不眠症となってゆく徴向が見られます。重度の場合は、編頭痛があります。その理由は、就眠中、メラトリンが薄らぐと、替わってβエンドロフィンが分泌されるまま、微眠が続き、βエンドロフィンの活用は長く続かず、これが薄らぐと、再びメラトリンが分泌されるままに、まばらに働いており、大脳のうち、嗅覚神経、聴覚神経、感覚神経の順で眠らせ（マヒ）させてゆきますが、視覚神経、運動神経については、一番覚醒（酔）が遅く、日常悪習慣により、自律神経が

~~過敏になり過ぎ、本論文に採適する。後頭骸に連絡する自律神経の興奮が覚めやらぬ時は、自律神経が、この覚醒の一番遅い視神経や、~~

運動神経をする大脳に極度に働きかける時、神秘的な金縛り現象に遭います。实例で言うと、

【0042】

不規則生活になり易い夜間運行のタクシー、トラックの運転手が幽霊をみたり、前方からオレンジ色のトラックの尾灯が自分に攻まり来るって来て、衝突事故を起こします。脳間絶交（精神分裂）症の中度期症状です。これが重度に進むと、实例ではUFOに遭遇したり、吸い上げ現象に遭ったりし、（欧米報告）夢遊症（ナルコレプシ）となり、極少例にあります。（但し、UFOは実在します。2005ー UFO I型機参照）精神鑑定すれば、すぐに分かる事であった。軽度では、就眠中、いきなり、ひきつけ、うわごと、からすがえりが起こります。

【0043】

(テオリーくん枕を使用して、不眠症を治すやり方)

この枕は、テオリーくん枕を使用すると、(はじめは、相当に痛みを感じますが、やがて慣れていきます) 翌日 後頭骸骨、筋が緩み始め、自律神経の過敏、

失調症の緩和に役立ちます。そして、軽度から始まる脳間絶交(精神分裂)症によるひきつけ、うわ言、からす返り、ナルコレプシはやがてなくなってゆき、治療されます。

【0044】

そして、この枕を持続使用すると、大脳を眠らせる覚醒(酔)分泌物が、βエンドロフィンに続き、メラトリンが誘発し、30~45分間程、多量に分泌し、大脳を眠らせませんが、メラトリンが薄れてゆくと、目が冷めます。頭が枕から転げ落ちるのですぐに分かります。その時、再度、本枕を使用し、再就眠を試みます。日々この様にして、この枕を使用し、1日8時間以上の継続する規則正しい就眠生活を訓練すると、不眠症はやがて完全治療します。

【0045】

(テオリーくん枕の効能を高める方法と別使用方法)

本枕を使って不眠症を治療させようとする場合、継続利用をお勧めいたします。又、別使用に示すツボの位置に当てて、使用すると、近、乱、遠視の矯正にも役立ちます。飲酒後や風呂上がり、猛勉強の後、頭脳が熱くなっている時に御使用される時には、湿った冷たいタオルを両眼の上に置き、両脚を高くし、本枕を使用し、就眠姿勢を取ると、深眠に入れます。イビキが気になる方にも本枕を使用すると、イビキは止まります。30~45分程、昼寝をしたい時にも、本枕は絶大な効果を表わします。

【0046】

【発明の効果】

動物、考証論理上から、犬猫類をする肉食に近い動物では、雄は交尾の相手の意に添ぐわない時には、決まって雌の後頭骸筋に噛み付き、これを意のままにし、雌は、我が児の運搬の際には、後頭骸筋に喰え付いて、持ち運びに供し、得物を掴える時にも、彼等は、この部位を確実に狙って、これを掴えます。

この理由は、哺乳類動物には、この発達した後頭骸筋(筋)を圧迫し、やがて強く押し行くと、微眠が始め、更に強く押し行くと、生体学上、大脳と

海馬が、即座に睡眠のスイッチの切り替え現象を起こす現象から、どんなに睡眠が満ち足りている場合(風雪の中の昼寝をも指す)の人でも、強制的に眠ら(レム状態)されてしまうものとなるので、性器の肥大さへ見られます。

【0047】

その為、病院等で用いる場合、普段は、普通の枕を使用し、時々、本枕を用いると、最大の効果が得られます。しかしながら、本枕を常用し過ぎると、前記する大脳と海馬の睡眠の切り替え現象が頻発する為、レム睡眠化現象状態が幣発する為、常時、(メラトリンが切れていてもβエンドロフィンが分泌され続ける為)微眠状態が身体に起こるからです。幣害は、現実と非現実の区別がつきづらくなりますが、病床安楽を望む患者さんが望む時、注意を以っての使用は、よい。と考えられます。

【0048】

例えが良くありませんが、神様は良くしたもので、考証論的に見るアフリカ、サバンナで狩りを営む、肉食獣では、大型被食獣を捕食する為、狩りをする際には、

その集積ヒゲオをアフリカには、見滅す際、強くこの後頭骸筋(筋)を確実に狙って噛み付いていきます。

【0049】

そして、ここを噛み付かれた被食獣は、苦しむ事なく、恐怖心も簿らいた様に気持ち良さそうに微眠み始め、性器の肥大さへ見られます。言うまでも

なく、これは、後頭骸筋、筋のバラバラを失った事で、目録を失い、この脱落で大脳が判定し、海馬が起き、(微眠)を誘い、海馬に近い視床下部に

刺激が起こり、オーガズムを起こす所となったからです。

【0050】

又、最近見かけた映画「グレイズ」におけるワンシーンで、ギンガが、この原理を知り、ピストルの柄で、被害者の後頭髄を殴り、殴

すると、然程力を入れず、殴っても、被害者は目線を失い、意識を無くします。やがて、居眠りから冷めた被害者が「まだ殴られた所が痛む！」と言っているシーンがあれば、それはウソであり、この原理を知らないプロデューサーの筋書き違いです。

【図面の簡単な説明】

【0051】

【図1】

昼大脳が起きて、パルス外入力電子 \ominus を取り入れ、インパルス電子を体内に発生させ、それをシナプス電子に変換させる刺激を各脳神経に伝達し、情報交換し、活動する時、旧脳、海馬は就眠中にある事を示した図。(巷みに未熟ではあるが、パトリオット追撃ミサイルには、これらの原理が応用されています。)

【0052】

【図2】

夜、大脳が眠ると、旧脳、海馬が起き出し、自身で通電するインパルス \oplus を発生させ、昼、大脳がシナプス電子 \ominus に変換し、刺激として集め

続けた諸情報をこれに取り込み、シナプス電子に再変換する。(強い情報はトラウマになる)以外、就眠時間、約8時間かけ、就眠中の大脳が発生させる、インパルス微弱電子放出(レム周期)時に合わせて、同周波数(記憶)にあう、これを大脳に送り返す。(この時、夢を見る。)図であって、本発明品、テオリーくん1号枕と、これの使用図。(特願、2004-181904、健康甦生保険手袋を参照されたし)

【0053】

【図3】

生、死、食、性、飢にかかわる五認知は、原則として、海馬の記憶に取り取り残されるものとなるが、極大嫌悪シナプス周期率の発生は、後のトラウマになり、この脳内に残る事を示す図であり、

コーヒーカップ等をテオリーくん1号枕に供するべく、窯入れする前の段回で、これを歪曲させ、クシャカップを作り、これを陶器として作り、中にラベンダー等の芳香草等を入れ、散らからない様に金網の蓋をし、本発明目的の枕として作る事を示した図。

【0054】

【図4】

必ず眠れる枕(テオリーくん4号)を人体、後頭髄に正確に当てた図と必ず眠れる枕(テオリーくん4号)に貯金箱、時計巻、カシメ、カシメ用紙入れの機能を示す、発明される貯金箱型必ず眠れる枕(テオリーくん4号)を表わした図。

【0055】

【図5】

敏捷性を必要にして進化(爬虫類)等は、頸部を退化させ、後頭髄と大脳皮質(新大脳)を進化させている事を示す図。

【0056】

【図6】

必ず眠れる枕、テオリーくん1号、2号併用して使用すると、効果が上がり、それと同時に、ヘルニアを予防し、人体S字形背柱の矯正に役立つ事を示した図であるが、つぼを●点で表わした位置に本発明品を用いて使用し、就寝前5~6分間、このつぼを刺激すると、乱視、遠視、近視(仮性)は治癒されます。

【0057】

【図7】

姿勢を悪くして、する仕事、業務を日々継続すると、人体S字形背柱から、C字形背柱に変わり、ヘルニアを起こし易い図と、矯正椅子図。

【0058】

【図 8】

腰痛防止、腰痛（行方）をリライニングに使用すると、レベルアップは効果を表わし、人体の姿勢、背骨の矯正に役立つ。

車等のシートに用いると、時間をかけず、すぐに安眠に入れる事を示した図。

【0059】

【符号の説明】

- 1、後頭骨図。人体の目線（レベル）の上下加減を安定させ、グラつきを無くする 備わり、首筋内に連結する 腱。
- 2、後頭骨筋図。人体の目線（レベル）の上下加減を安定させ、グラつきを無くする 備わり、後頭骨筋と繋がる 筋肉。

3、筋肉血管図。人体の目線（レベル）の上下加減の安定を計るべく、主として、後頭骨筋に栄養（血液）を常時補給すべく、伸縮自在の血管であり、

この血管に血液が補給（充血）され続けると、後頭骨筋（センサー）が緊張を感知し、自律神経を經由させ、大脳に命令を送るシステムとなる。すると、

人、若しくは、動物は眠れなくなり、不眠症となる。

4、頭皮図。5、頭骨図。6、海馬図であり、この脳は旧脳に属し、記憶体系を司り、通常、夜る起きて活動する。

7、大脳図。新脳の事であり、主に（高等動物）の生活系に直接関かわる常時必要な諸情報を（夜る起きて働らく海馬に整理され）、順次中枢神経に貯え、海馬の就民に合わせて起き出し、働らく時、インパルス、シナプス電子等信号を交互に発生させ、新進脳（大脳皮質）と互いに連絡を取り合い続けるが、共に近在情報をのみ殆ど取得するものであり、ほぼ旧体情報を持たず、これを枢使し、夜る眠ると、ここにバネの様に収宿した（図1の7に見られる疲労）、その日、その日の新情報を一度にドツと、旧脳海馬に吐き出す時、（人は）深い眠りに入ったと言う。（大脳の疲労回復ともいう。）すると、海馬が起き出して、大脳が吐き出した諸情報を凝縮したバネの様にして受け止め、その膨大量の諸情報の支訳けを約8時間かけて、取り行ない、整理が付くと、レム期に同調し、（この時、メラトリンが冷めて、βエンドロフィンが分泌される。）大脳を起こし、海馬に近い所から、順送する、いらぬ不要な情報から、必要な情報を大脳（中枢神経）に送り込み続ける事となります。

8、大脳皮質図。新進脳であり、主に（高等動物の）生活系に直接係かわる目、手足、指、舌、等を瞬時に動かす命令指揮系統を司る脳であり、その動きの判断、指揮系統は、大脳（中枢神経）にあり、フェンシング、剣道、レーシングドライバー等他、読書家（速読）、コンピューターオペレーターをして、活動する、大脳被質の俊発、機敏性を必要とする職業人は、この脳の発達が旺盛となる事と共に、筋、血管が発達し、まばたきが少なくなります。

9、延髄。原始脳であり、下等動物、高等動物にある、心臓、他内臓、呼吸機関にある自律神経につながり、一が動くとなが動き、二が動くから、連動して、又一が動くという様に、規則正しい動きを司る調整器管であり、これに異常、変状が起こると、その調整にも携さわり、永久運動をこれに持続させようとして働く事を、職務としている神経束と、調整器的役役を果す器管。

10、小脳。自律神経、延髄の自動永久動作に、異常、変状が起こる時、これらの調整を司る、これらのものに対しての中枢神経機管となる。

11、インパルス、シナプス直線ベクトル線図。

人動物等は、昼起きて、太陽光（パルス）の多い時、その必要なパルス電子波長を主に膚（ロドプシン）細胞と眼を進化させ、体内に多く取り入れた時、同時にそれを

蓄積する、シナプス放電現象（シナプス電子シート）を作り上げ、日照時、蓄積するシナプス電子と同力のイオン電子とに、体内に貯え、発生させます。すなわち、

生物は、目の見える範囲を自体と同化させる事の認識を得る事が出来ます。分り易く言う

と、
12、インパルス、シナプス曲線ベクトル（バネ状ベクトル）図。

太陽パルス電子④は、人体パルス④電子に体内で蓄電し、人体リズム曲線に体内に蓄電した時、反作用で生じる同力のシナプス④電子が発生し、これはシナプス④電子(100M)磁力線で出力した時、同力の太陽光(100M範囲)のパルス④電子反作用が自分の体内で蓄電して来る事になる時、人物は、100M

先範囲の直線光影を直線範囲で見た。と言い、これに反して、100M先の鼠を発見する猛禽類では、

13、目、目線を示した図。

この時、進化下の高等動物の目と目線は、シナプス、磁力線と同化(セット)した太陽光パルス④(体内で人体パルス電子線に蓄電される)直線線を

あくまでも、鉛直に対して直角(レベル)位置でこれを見続ける事を必ずしも必要としている図であり、暗がりや、遠距離において、得物の狩猟を必要とする、猫、ワニ、ヘビ、引いては、鷹、鷲等の眼が光って見えるのは、彼等の眼球が我々人類とは違い、大きく作られておりシナプス電子発電量が違っている由ににあります。それ故、シナプス電子発電量の多いヘビがその発電量の少ないカエルの目線に照準を合わせた時、その出力差からカエルの

網膜は、瞳孔、角膜と目、目線に結びつきます。したがって、この強いシナプス電子を放つのは、何れも網膜に結びついたり、人間の戦士や敗戦中の

兵士等人間の目も闇の中で相当に光るらしく、怪談話のよくネタに揚げられます所、嫉妬に狂った女性が、蛇にも負けない眼光を出力し、この電子力を放ち、掘強な男性兵士さえも石の様に固まらせ、怪談話をより一層、真実味を滞りさせるままに、ギリシア神話のゴーゴンに祭られ、学者達の裏話となり、哲学を盛り上げますが、トドのつまり、鏡を持たせると、これらのものは別科学に応用されるものとなった。(特願2004-314796、盗聴コン、ウイルス防止器参照されたし)

14、必ず眠れる枕(テオリーくん1号)を示した図。15、腰痛防止枕(テオリーくん2号)を示した図。16、香り、クシャコップ(テオリーくん3号)を示した図。17、金網18、S字型背椎図。人の背柱は、直立歩行をするのに有利な様に、S字形をしている。ところが、悪い姿勢を余議なくされがちで、一日座り仕事をする事の多い事務職や車両運転手業におけるタクシー、クレーン、ユンボ、ダンプ長距離運転手業の人々は、退職すると必ず、腰を痛め、曲がってしまうという神話があり、これは事実に基づく実話であったが、その論理は、これらの人々は、人体生理機能学上、その日々の業務中、これらの荷重を保持し、直立歩行するのに適したS字型背椎曲線を強制的に丸める為、図はS字型背椎を表わしており、19、C字型背柱図。むしろ、C字型の背柱構造曲線を作ってしまうものであった。それ故、図はC字型背椎を表している。

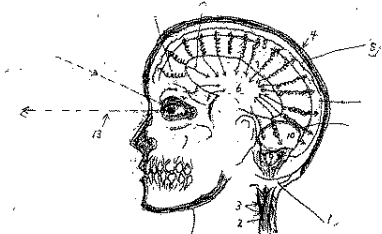
20、腰型ヘルニア図。その為、これらの人員では、その業務中、荷物の積み降しも取り行われる場合も多く、その悪癖で腰椎がズレ易くなっているものであり、(これが椎間板ヘルニアの正体であった。)Cの字型になっているのであり、(特に)腰椎に体重荷重をかけて、曲げては、起こす動作を繰り返した場合は、耐えかねた腰椎がいきなりズレる時、ギックリ腰(ヘルニア)となるべく、生態メカニズム現象を現代、医学外科学会には報告されてはいないものであった。(論文が無い。特許論文となった。)

21、S字型腰椎矯正図。それ故、休憩中の運転手やリクライニングチェア他、就眠前に、腰痛防止枕(テオリーくん2号)を人体腰部に入れて、歪曲したC字形曲線腰椎を矯正し、S字型曲線腰椎に戻してやると、この業種のギックリ腰(ヘルニア)は壊滅してなくなる程の絶大な効果があるものであった。又、この枕を腰部他の場所に当てがって5~6分間の矯正を行うと、やはり、大脳、小脳、自律神経と連動する機関である背椎は、目線が狂ったものである。と錯誤し、多量のβエンドロフィンから始まり、やがてメラトリンをする(大脳覚醒物質)を分泌し続けるものとなり、やがて、深い眠りに陥る事が出来る事と共に、不眠症をも解消出来るものであった。

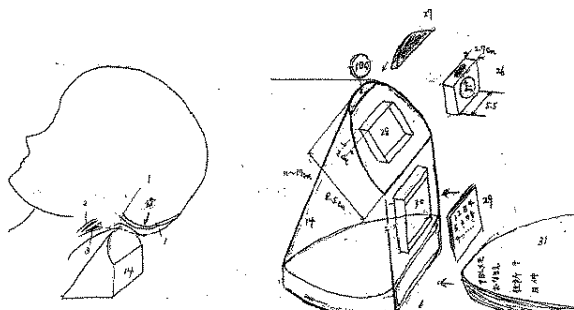
22、膝乗せ器。23、極大嫌悪記憶(トラウマ)を示した図。24、ラベンダー等の香り草。25、貯金箱型、必ず眠れる枕(テオリーくん4号)の図。26、時計。27、貯金箱の。28、時計入れ凹。29、カレンダー。30、カレンダー入凹。31、メモ用紙。32、メモ用紙入凹

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】 図面
 【補正対象項目名】 全図
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】

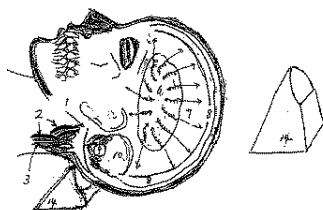
【図 1】



【図 4】



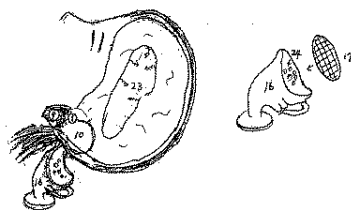
【図 2】



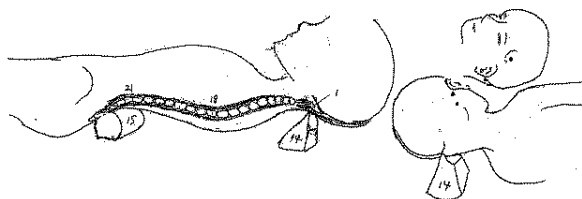
【図 5】



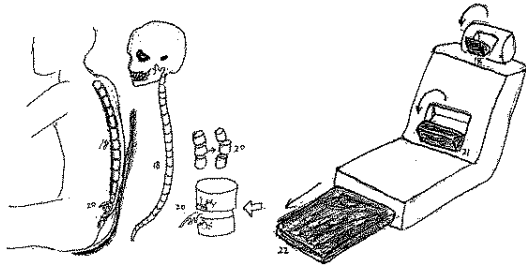
【図 3】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

